

平成 30 年度水産研究所研究成果発表会の開催

平成 31 年 3 月 19 日、岡山市のピュアリティまきびにおいて、水産研究所研究成果発表会を開催した。この発表会は、水産業界関係者をはじめ広く県民に当研究所が行う研究開発の成果の一端を紹介し、理解と関心を深めてもらうことを目的として平成 24 年から始めたもので、当日は漁業者および漁業関係団体、県市町関係職員、大学等教育機関、一般県民等 35 名が参加し、口頭発表 3 課題、ポスター 7 課題の展示と意見交換を行った。

口頭発表ではまず、水圏環境室の古村専門研究員が「カキ殻を用いて海底の生物を増やす」と題して、カキ殻を用いた底質改善の効果と生産力を向上させる試みについて紹介した。発表後の参加者へのアンケートでは、「貝殻の有効性がよく分かりました。」、「機能の継続が重要であると思いました。」等のご意見をいただいた。

次に、開発利用室の中力専門研究員が「岡山県西部海域におけるシャコ資源の現状」と題して、シャコ資源の現状把握と管理手法の検討を目的として実施した資源生態調査の概要について紹介した。アンケートでは、「シャコが減っていることはよく聞いていましたが、データで示されて、よく分かりました。」、「シャコが増える取り組みをしてもらいたいです。」等のご意見をいただいた。

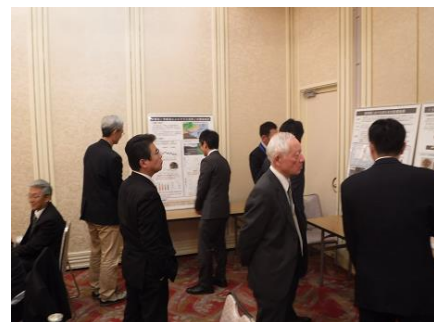
次に、資源増殖室の増成専門研究員が「モクズガニ資源回復研究」と題して、不明な点が多いモクズガニの親ガニ分布や産卵時期、稚ガニ放流後の成長や生残について紹介した。アンケートでは、「環境 DNA の調査手法について有効性がよく分かりました。」、「これからの生物研究に役立つと思いました。」等のご意見をいただいた。

このほかに、「15 年振りに発生した岡山県での麻痺性貝毒」、「栄養塩と漁獲量およびマガキ成育との関係解析」、「豪雨時における河川水の影響範囲」、「ヒラの旬の「見える化」」、「アサリを守り育てる」、「トラフグ資源の回復に向けての取組み」、「岡山県における内水面漁業・養殖業の安定化」といった最近の調査研究を紹介したパネルを展示した。

今回の成果発表会を通じて、豊かな海を実現するための課題解決に向け取り組むことが、私たちに課せられた責務であることを再認識した。最後に、当日参加していただいた皆様方、開催にあたりご協力いただいた関係各位に改めてお礼を申し上げます。(資源増殖室：近藤)



口頭発表状況



ポスター発表状況